

彙報

京都大學文學部哲學科卒業論文題目

昭和二十七年三月

哲學專攻

飯田才太郎 因果律の研究 (Hume, Kant & Schopenhauer)

Hume の經驗論

小川 洋

美しき魂の成立

大鹿 一正

アリストテレス、第一哲學の構想

興地 琢也

カントに於ける演繹論の問題

甲斐 實道

カントに於ける「自然」概念に就いて

久野 昭

魔術的觀念論の形成

是恒 高保

カントに於ける理想社會について

佐藤 明雄

カントに於ける綜合と自覺の問題

佐藤 卓次

生の超越性についての一考察

——カントの「Lebensanschauung」に於ける——

工田 春彦

カントに於ける最高善の問題に就いて

土屋 充理夫

科學及び技術の哲學に關する考察

西山 輝夫

先驗的方法論について

廣瀬 武夫

經驗の構造と學

——ハイゲル、胡適の現象學研究——

松永 雄二

宗教の純粹性と、ふくこと

宮池 宏

聖トマス の存在論研究

——De esse et essentia substantiae compositae——

森田 孝

シェリング「自由論」の課題

安本 行華

S. Kierkegaard の主體的眞理觀

湯川 佳一郎

デカルトの形而上學

——その主意識の展開——

吉川 健郎

直觀哲學への臆測

小島 脩

思惟に就いて

布川 完

純粹悟性 の原則について

西洋哲學史專攻

柏木 俊孝

「6. 20. 1906. 1910. 1912. 1914. 1916. 1918. 1920.」  
——第四福音書における Incarnation の思想に  
して——

橋本 牧夫

トマス・アクイナスに於ける形而上學的課  
題について

福島 寅彦

カントに於ける形而上學と先驗的哲學

吉川 俊夫

記號論理學に於ける意味論

印度哲學史專攻

武田 公丸

バガヴァッド・ギーターに於ける誠信思想  
（マヘンダカ）

支那哲學史專攻

三井 宙左右

詩、國風に見られる古代支那人の感情につ  
いて

川本 正夫 春秋左傳の天觀念

心理學專攻

岡本 夏木 人格の硬さについて——その二——

北川 文男 時間知覚についての一實驗

高橋 太郎 指示語の發達  
(その心理學的考察)

竹本 照子 兒童の知覺構造について

長尾 靈彰 視空間の異方性  
——下方向の空間の實驗——

野村 昭 Blocking 現象に關して——その二——  
M. A. P. S. Test における兒童の Planning とその發達の考察

増永 幸一 性格の因子的研究

見神 俊彦 性格の因子的研究

淺 尾 榮 Lebensphilosophie とその倫理  
——G. Simmel : Lebensanschauung より——

大 仲 由文 Kant の根元惡について

金 重 操 JS. ールの社會改造論に現れた倫理思想  
人倫の一考察  
——ヘーゲルの人倫を媒介として——

鶴 田 孝 シエーラー倫理學に於ける人格の情緒的存在構造に就て  
——愛の秩序——

深 谷 昭三 Kant の自由論

湯 淺 忠雄 Kant の自由論

若野 實穂 ショーペンハウエルに於ける歴世觀の超克に關する一試み

教育學教授法專攻

上 田 吉一 適應異常學童の指導  
シュライエルマツヘルに於ける「教育の意義」

竹 岡 幸一 精神薄弱兒の教育

竹 林 和夏 精神薄弱兒の教育

作 間 芳郎 悲劇に於ける人間の意志  
來迎圖考

篠 森 晴人 來迎圖考  
——その自然景の描寫について——

中 西 徹 高山寺藏「人物鳥獸畫卷」  
美的體驗について

野 口 榮子 小説の効用について

林 鶴子 Kant 美學の諸問題  
象徴の問題

藤 田 猛 象徴の問題

藤 野 恒道 江戸時代の日本繪畫に及ぼした西洋畫の影響  
——接近法的考察——

古 家 玲子 映畫の創造とその詩  
肯定の藝術

松 尾 昭典 肯定の藝術

宮 際 一郎 ドストエフスキイ論  
——リアリズムについて——

宮 脇 修 ドストエフスキイ論

哲學研究 第四百七號

横田 雄作 演劇の本質に關する一考察

社會學專攻

榎本 立二 ロシヤに於ける村落共同體の研究

大林 一正 日本村落の社會學的研究

加納 重朗 宗團結合の要素的分析

詹 尙仁 教育社會學論攷

趙 鏞 植 朝鮮の家族

檜 垣 巧 近世封建社會の研究  
——江戸時代——

福原 稔朗 政黨の研究

矢野 俊明 中國社會層の研究  
——清朝時代——

矢 追 義三 貨幣の社會學的研究

廖 大 鶴 中國民族の研究

宗教學專攻

源 哲 蔚 感情と教虔  
——シュライエルマツヘル研究——

佛敎學專攻

藤生 了 宣 佛敎に於ける「あきらめ」  
——論の研究——

今井 澄 男 中觀の哲學  
——殊に月稱著中論釋を中心として——

出雲路 暢 眞 親鸞聖人の過善知識について

新 開 啓 吾 法華經を構成する體驗構造  
——一つの哲學風の追求——

西 脇 順 二 親鸞敎における正定聚の概念について  
自性について

半 野 義 隆 中論、第十五品・第十八品をめぐって

三 宅 隆 山 無神論(佛敎的)と止觀論